

⑨がん患者の予後予測

はじめに

緩和医療の分野では患者や家族の意向を反映した医療を提供するために、生命予後を予測することが大切である。予測される予後を表す際に、時間単位、日単位、週単位、月単位などと表現することが多い。

短期的な予後（週単位）を予測する指標として代表的なのは **PPI（Palliative Prognostic Index）** である。PPI は Palliative Performance Scale（PPS）、経口摂取、浮腫、安静時呼吸困難、せん妄、の合計得点を算出して利用できる。以下に PPI と PPS の表を記載する。

なお下記に紹介する予後予測ツールはテンプレートとして、診療録の「文書作成」⇒「定型記載ツール」⇒「緩和医療科」から使用可能である。

PPI

Palliative Performance Scale	10-20	4.0
	30-50	2.5
	60 以上	0
経口摂取量*	著明に減少(数口以下)	2.5
	中程度減少（減少しているが数口よりは多い）	1.0
	正常	0
浮腫	あり	1.0
	なし	0
安静時呼吸困難	あり	3.5
	なし	0
せん妄	あり（原因が薬物単独のものを含めない）	4.0
	なし	0

*:消化管閉塞のため高カロリー輸液を施行している場合は 0 点とする

カットオフ値を用いた PPI スコアの解釈

得点	予測される予後
6.5 点以上	21 日以下（週単位）の可能性が高い

3.5 点以下 42 日以上（月単位）の可能性が高い

PPS

PPS の求め方：左側（起居）から優先度が高い順に項目が並べられている。左から順番にみて、患者に最もあてはまるレベルを決定する。

%	起居	活動と症状	ADL	経口摂取	意識レベル
100	100%起居している	正常の活動が可能 症状なし	自立	正常	清明
90		正常の活動が可能 いくつかの症状がある			
80		いくつかの症状はあるが、努力すれば正常の活動が可能			
70	ほとんど起居している	何らかの症状があり 通常の仕事や業務が困難	時に介助	正常または減少	清明または混乱
60		明らかな症状があり 趣味や家事を行うことが困難			
50	ほとんど坐位 か横たわっている	著明な症状がありどんな仕事もすることが困難	しばしば介助	減少	清明または 混乱または 傾眠
40	ほとんど臥床		ほとんど介助		
30	常に臥床		全介助	減少	
20				数口以下	
10				マウスケアのみ	傾眠または 昏睡